

## 聖霊降臨後第22主日のミサ固有唱

聖寵なくしては、われらには何一つ出来ない、われらのなしうることは、罪だけである。この事実こそ、〈入祭文〉の信頼の祈りの説明である。

囚人となっていたパウロは、信仰の賜、洗礼の時からはじめてきた善業を、最後まで守りつづけよと教える。

キリストの来臨を待ちつつ、われらの心には、ますます愛が増さねばならぬ。

### 詩編 129.3-4

SI iniquitates observáveris, Dómine, Dómine, quis sustinébit? quía apud te propitátio est, Deus Israél.

Ps. 129: 1, 2. De profúndis clamávi ad te, Dómíne: Dómíne, exáudi vocem meam. V. Gloria Patri.

DEUS, refúgium nostrum, et virtus: adésto piis Ecclésiæ Tuæ précibus, auctor ipse pietátis, et præsta: ut quod fidéliter pétimus, effícaciter consequámur. Per Dóminum.

### フィリピ 1.6-11

Fratres: Confídimus in Dómino Jesu, quia qui cœpit in vobis opus bonum, perfíciet usque in diem Christi Jesu. Sicut est mihi justum hoc sentíre pro ómnibus vobis: eo quod hábeam vos in corde, et in vínculis meis, et in defénsióne, et confirmatióne Evangélii, sócios; gáudii mei omnes vos esse. Testis enim mihi est Deus, quómodo cúpiam omnes vos in viscéribus Jesu Christi. Et hoc oro, ut caritas vestra magis ac magis abúndet in sciéntia, et in omni sensu: ut probétis potióra, ut sitis sincéri, et sine offénsa in diem

### 入祭文

もし主が、われらの罪に御目をとどめ給うなら、主よ、主よ、誰が我らを支えようか。しかし、イスラエルの神よ、主のうちに我らは御憐れみを見奉る。主よ、私は深い淵より、主に向かって叫ぶ、主よ、私の声を聴き給え。

願わくは、聖父と……

### 集祷文

われらの避難所であり、力にてまします神よ、信心の作り主なる神よ、主の教会の祈りを聞き、信頼をもって我らの乞い奉ることを、事実において受けさせたまえ。神として……

### 書簡

兄弟たち、あなた方の中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、それを完成してくださることを、わたしは確信しています。あなた方一同について、このように考えるのは当然なことです。わたしは囚われの身にある時にも、福音を論証し擁護している時にも、あなた方に心を留めているからです。あなた方はみな、わたしと恵みを分かち合っているのです。キリスト・イエスの心をもって、わたしがどれほどあなた方一同に思いを寄せているかは、神が証人です。わたしはこう祈っています。神への深い知識と、研ぎ澄まされた感覚を身につけることによって、あなた方の愛がますますいっそう豊かになり、大切なことを識別できるようになりますように。キリストの日に備えて、あなた方が

Christi, repléti fructu justitiæ per Jesum  
Christum, in glóriam et laudem Dei.

詩編 132.1-2

ECCE quam bonum, et quam  
jucúndum, habitáre fratres in unum!  
V. Sicut unguéntum in cápite, quod  
descéndit in barbam, barbam Aaron.

詩編 113.11

ALLELÚIA, allelúia. V. Qui timent  
Dóminum, sperent in eo adjútor et  
protéctor eórum est. Allelúia.

マタイ 22.15-21

IN illo témpore: Abeúntes pharisæi,  
consilium iniérunt ut cáperent Jesum in  
sermóne. Et mittunt ei discipulos suos  
cum Herodiánis, dicétes: Magíster,  
scimus quia verax es, et viam Dei in  
veritáte doces, est non et tibi cura de  
áliquo: non enim réspicis persónam  
hóminum: dic ergo nobis, quid tibi  
vidétur: licet census dare Cæsari, an  
non? Cógnota autem Jesus nequítia  
eórum, ait: Quid me tentátis, hypócritæ?  
osténdite mihi numísma census. At illi  
obtulérun t ei denárium. Et ait illis Jesus:  
Cujus est imágo hæc, et superscríptio?  
Dicunt ei: Cæsaris. Tunc ait illis:  
Réddite ergo quæ sunt Cæsaris,  
Cæsari: et quæ sunt Dei, Deo.

エステル 14.12,13

RECORDÁRE mei, Dómine, omni  
potentátui dómínans: et da sermónem

純粹で、非難されるところのない者となり、イエス・キリストによってもたらさせる義の実を豊かに結んで、神の栄光をたたえることとなりますように。

昇階唱

兄弟たちが一致して生きるのは、なんと快く、なんと楽しいことであろう。

この一致は、アアロンの額から髭に滴る香油のようである。

アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ。主を恐れるものは、主により頼め、主こそ、彼らの支え、守り手にてまします。アレルヤ。

聖福音

その時、ファリサイ派の人々は外に出ると、イエスの言葉じりをとらえようと協議した。そこで、自分たちの弟子をヘロデ党の者たちと一緒に、イエスのもとに遣わして言させた、「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、また相手によって態度を変えず、誰をもはばかりない方であることを知っています。ところで、お伺いいたしますが、どうお考えでしょうか。ローマ皇帝に人頭税を納めることは、許されているのでしょうか、いないのでしょうか」。イエスは彼らの悪意を見抜いて、仰せになった、「偽善者たち、どうして私を試みるのか。人頭税に納める銀貨を見せなさい」。彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは仰せになった、「これは誰の肖像か。また誰の銘か」。彼らが「皇帝のものです」と答えると、イエスは仰せになった、「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」。

奉献文

主よ、私を思い出したまえ、すべての勢力を支配したもう御者よ、王に嘉せられるために、私の口に知

rectum in os meum, ut pláceant verba  
mea in conspéctu princípis

DA, miséricors Deus: ut hæc salutáris  
oblátio, et a própriis nos reátibus  
indesinéntur expédiat, et ab ómnibus  
tueátur advérsis. Per Dóminum.

VERE dignum et justum est, æquum et  
salutáre, nos tibi semper et ubique  
grátias ágere, Dómine sancte, Pater  
omnípotens, ætérne Deus: Qui cum  
unigénito Fílio tuo, et Spírítu Sancto,  
unus es Deus, unus es Dóminus: non in  
unius singularitáte persónæ, sed in  
unius Trinitáte substántiæ. Quod enim  
de tua glória, revelánte te, crédimus,  
hoc de Fílio tuo, hoc de Spiritu Sancto,  
sine differentia discretiónis sentímus. Ut  
in confessióne veræ, sempiternæque  
Deitátis, et in persónis proprietas et in  
esséntia únitas, et in majestáte adorétur  
æquálitas. Quam laudant Angelí, atque  
Archángeli, Chérubim quoque ac  
Séraphim: qui non cessant clamáre  
quotidíe, una voce dicéntes:

#### 詩編 16.6

EGO clamávi quóniam exaudísti me,  
Deus: inclína aurem tuam, et exáudi  
verba mea.

SÚMPSIMUS, Dómine, sacri dona  
mystérii, humíliter deprecántes: ut qua  
in tui commemoratióne nos fácere

恵ある言葉を置き給え。

#### 密唱

慈悲深き神よ、願わくは、この救いのいけにえによ  
り、われらの罪の鎖が解かれ、すべての災いが退け  
られんことを。神として……

#### 叙唱（三位一体）

聖なる主、全能の父、永遠の神よ、われらが、いつ  
も、どこにても、主に感謝をささげるのは、実にふ  
さわしく正しいことであり、我らの義務と救いであ  
る。御身は、御独り子と聖霊とともに、唯一の神、  
唯一の主にてまします。すなわち、御身は、唯一の  
位格にてましますのではなく、三つの位格における  
一体にてまします。われらは、御身の啓示にもとづ  
き、御身の御栄光について信じ奉る真理を、御独り  
子と聖霊とについてもともに等しく、差別なく、信  
じ奉る。こうして、我らは、真の永遠の神をたたえ、  
その神性において、位格の区別と、本性の唯一性と、  
神の御稜威の平等性を賛美し奉る。天使、大天使、  
智天使も熾天使も、これをほめたたえ、極まりなく  
声を合わせて歌う。

#### 聖体拝領唱

わが神よ、私は主にこい願ひ奉る、御身は私の願ひ  
を聞き給うからである。御耳を傾け、私の祈りを聴  
き給え。

#### 聖体拝領後の文

主よ、聖なる奥義に養われたわれらは、ひれ伏して  
願ひ奉る。御身の命じ給うたとおり、御形見のいけ  
にえを行う我らに弱さの助けをそこに見出させた

præcepisti, in nostræ proficient      まえ。聖父なる神とともに……。  
infirmatatis auxiliium. Qui vivis et regnas.

※日本語訳は福音書及び書簡を除き、バルバロ『毎日のミサ典書』より引用。福音書及び書簡の日本語訳はフランシスコ会聖書研究所訳  
注『聖書』(2011年)より引用。

またのご参列を楽しみにお待ちしております。  
ウナ・ヴォーチェ・ジャパン一同 (Mail:info@uvj.jp URL: http://uvj.jp)